

農作業の出来る**幸せ**

季節を感じて生活できている中で1年間で今の時期が、最高です。昼間が長い、日中は暑く、汗ばみ、夜は涼しい。山々は様々な緑を彩り、水稻は、中干でグリーンが濃くなってきてしっかりしています。黒豆は、定植完了。手入れ十分、夏野菜は、これからが本番、農作業が出来る**幸せ**を感じております。

農業経営は、米の値段は低迷、担い手問題、町獣害対策といろんな問題があり苦しいので若者の農業離れは、止むを得ないところであります。

しかし、地域では、「農事組合法人 京丹波ほたるの里」を立ち上げ、会員様の多大なご理解とご協力により、健全な会計で12年経過しました。会社を卒業した会員ばかりが楽しみながら作業をお世話になっております。

今、農業にも情報通信技術(ICT)や人工知能(AI)を駆使したスマート農業への取り組みが実験的に始まる中、本来農業とは無縁の業界から機器開発やシステム構築などで参入する動きが目立っています。高齢化と人手不足の農業で、その打開策となる自動化、省力化に商機を見いだしての戦略です。

先日も京都府でもスマート農業の実習の研修会が開かれました。地域では、経営問題、中山間地域での対策で疑問を持つ農業者も多い中、京丹波ほたるの里として、スマート農業に取り入れられるものがあれば、取り入れたい、時代に乗り遅れてはならないとの考えを持ち、前向きで勉強会に参加しています。具体的には、圃場の水管理システムやドローンによる作物の消毒作業等が魅力的に思っております。

「京丹波ほたるの里」では、水稻は、コシヒカリ、キヌヒカリ、新羽二重餅、酒米(京の輝き)、WCS(飼料稲)と皆様のご努力により順調に育てしております。小豆に関しては、7月中の播種に向け作業をお世話になる予定にしております。

特に、近年、黒豆の作業が安定してきたような気がします。令和元年を迎えて順調に進んでおります。播種、定植、土寄せ(こよせ)が、すべての圃場で完了しました。土寄せの効果は、①倒伏防止 ②草対策 ③根の活性化等がありますが、③の根の活性化が一番重要だと思っております。豆類は根粒菌の働きで根に根粒を付け、窒素を取り込みます。故に、窒素肥料は、あまり必要としない。開花の時期にきて初めて窒素肥料を施すというので良いのです。植付終了後、即、土寄せが必要です。黒豆の茎が軟らかいうちに土寄せが必要で、遅れては効果がありません。今年は、土寄せ(こよせ)の最高の時期に終了しました。次は大寄せを遅れないように実施したいと思っております。

今後、鹿対策、草対策、害虫対策等作業を充実させて、10月半ばには「黒枝豆」、12月、1月には「黒豆」としてお客様に喜んでいただくように、農作業は遅れてはつらいことばかりです。先手、先手で農作業の出来る**幸せ**を持続するように頑張っていきたいと思っておりますので、今後とも会員様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

美しいふるさとをみんなの力で守っていこう!